

今月の表紙



城山祭り実行委員会の皆さん。保育園児の歌や太鼓、太刀踊りの披露、カラオケなど、子どもから高齢者まで楽しめる黒岩の夏の風物詩である城山祭りを盛り上げてくれています。

PICK UP CONTENTS

- P3 [特集] 新たな管理型産業廃棄物 最終処分場の受け入れについて
- P6 まちの話題
- P7 職員採用募集のお知らせ
- P13 高北病院
- P14 子育て・健康応援ページ
- P16 お知らせ
- P23 さかわ発明ラボNEWS
- P28 ボタニカルニュース
- P29 青山文庫だより & 文芸
- P31 学校だより 佐川町立斗賀野小学校
- P32 スポーツ

特集

新たな管理型産業廃棄物 最終処分場の受け入れについて

加茂地区において「新たな管理型産業廃棄物最終処分場」建設のための調査がはじまります。

これまでの経過

昨年12月に高知県が佐川町加茂を「新たな管理型産業廃棄物最終処分場」の建設予定地として絞り込んで以降、県による6度の住民への説明会や、6度の「話し合いの場」、6度の「個別にお話を伺う場」、そしてエコサイクルセンター見学会、候補地の現地見学会を経て、5月31日に県知事から佐川町長及び佐川町議会議長に対して正式な受け入れの依頼がありました。

受諾する旨を県に回答

佐川町としては、県による住民への説明会などの取り組みにより、施設の必要性や安全性への地域住民や町議会の理解が進んできていることから、県に対して

・住民の中には施設に対する不安が今でも払拭されていないことを重く受け止め、今後においても丁寧に対応すること

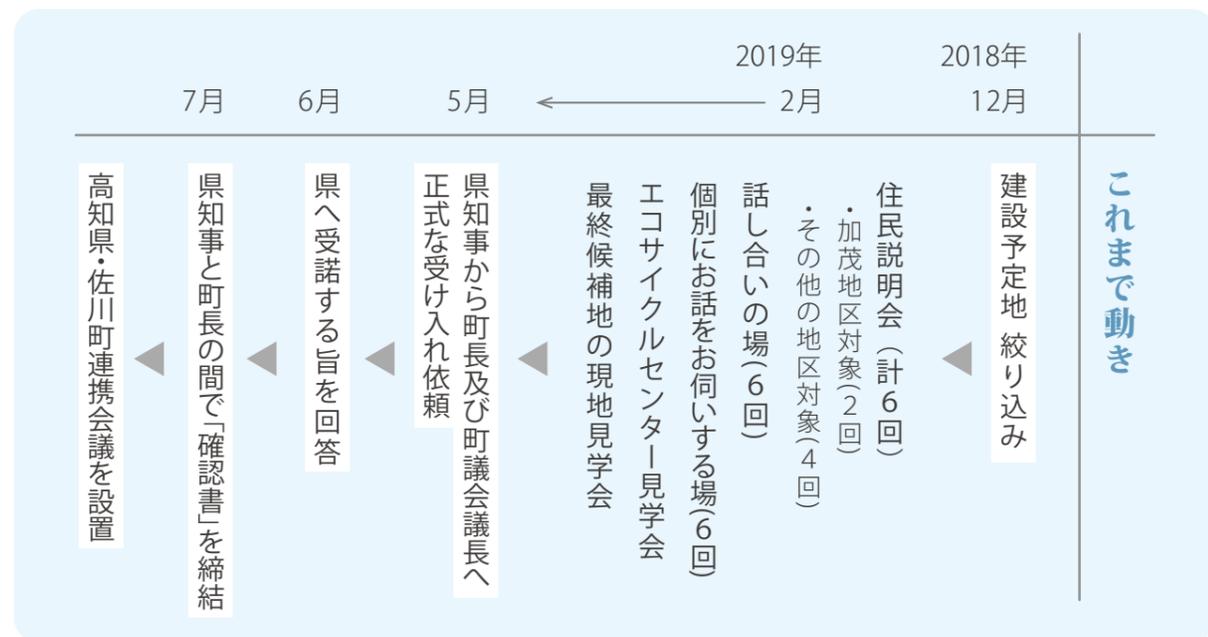
・地域住民の安全確保、生活環境の保全及び不安の解消に関する取り組みと地域振興策を実施すること

など、7項目を条件として受諾する旨を6月17日に回答しました。

確認書の締結

さらに7月2日には、これまで県が、「話し合いの場」などで約束してきた事項と、町が、町議会や地域住民の意見をふまえて申し入れた事項を明記した「確認書」を高知県知事と佐川町長の間で締結しました。

※ 県からの依頼文書、町が受諾を決定した理由、県への回答書、「確認書」については、佐川町のホームページからご覧になれます。



これからの私たちのごみ処理について考えよう！

現代社会において、私たちが物質的に豊かな生活を享受し、経済活動を営む中で発生する産業廃棄物をすべてリサイクルできない現状では、どこかに産業廃棄物最終処分場を建設する必要があります。

一方、家庭からゴミステーションへ排出しているごみ（一般廃棄物として分類）についても、収集された後、清掃センターで焼却・分別を行っていますが、焼却灰やリサイクルできない不燃物が残るため、それらは最終的に埋め立て処理されます。

佐川町は、越知町・仁淀川町3町の広域でゴミ処理を行っており、最終処分は、原則この3町内で行う必要があります。

過去には、佐川町内で一般廃棄物最終処分場の整備が計画されたことがありましたが、周辺住民の理解を得ることが出来ず、越知町楠神に施設を増設しました。その施設も、平成29年3月で満杯となったため、止むを得ず現在は地域外へ持ち出す方法で、処分を行っています。

現在、佐川町では、新聞やペットボトルなど8品目を資源ごみとして皆様に分別していただきリサイクルに回していますが、可燃ごみ・不燃ごみとして排出しているものの中にも、リサイクルが可能なプラスチック類などが含まれています。一方、お隣の徳島県では、生ごみを堆肥化することなどによって、「ゴミゼロ」を目指す取り組みがすでに始まっています。

私たちがもう少し分別などの手間をかければ、資源の有効な活用が可能で、最終的に埋め立てせざるを得ない焼却灰も減らすことができます。

そのためには、分別や収集、そして処理の方法を見直す必要があると同時に、何よりも町民の皆様の理解と協力が欠かせません。一朝一夕でできることはありませんが、佐川町の将来の環境のために皆様とともに考えていかなければならない課題です。



▲「話し合いの場」の様子(5月12日)



▲ 建設予定地

これからの動き

今後、県による建設予定地の詳細な地質調査や施設の基本設計が行われ、調査の結果等については節目ごとに説明と意見聴取の機会が設けられます。こうした過程を経て、致命的な問題がない限りは施設建設に向けた取り組みが進むこととなります。

また、7月17日には、施設周辺の安全対策や地域振興策について協議するために、高知県・佐川町連携会議を設置しました。町としては、地域の皆様の意見を伺いながら、周辺の安全対策などを取りまとめ、連携会議で県と協議した上で具体的な実施内容を決定し、県との間で協定を締結することとしています。

